

# 体験教育

## 「特色ある明星教育」の 実現に向けて

理事長 吉田 元一



一昨年に始まったコロナ禍から二年が経ちました。この「体験教育」が皆様の手元に届く頃にはコロナも収まり、桜の下で新入生の入学式が行われていることを願っています。

この間、明星幼・小・中・高は府中校危機対策本部を設置し、明確なコロナ対処方針を策定し、さまざまなリスクに対応するシナリオを準備し、教職員全員一丸となり万全の態勢で臨んできています。園児、児童生徒、教職員の命の安全と質の高い教育の持続を最優先に、学苑の運営に努めています。少しでもリスクがある時は、学苑の費用負担でPCR検査を実施し、お陰様でクラスターも無く安心して学べる環境を維持しています。

一方このコロナ禍の逆風の中、府中校は着実に成果を出しています。小・中・高それぞれ志願者数は確実に増加しており、二〇二一年度の在籍、在園数は二五八七名と最近約二〇年間のなかで最高の人数に達しま

した。校園長をリーダーとする教育改革に邁進した成果が出ていると嬉しく思います。

現在明星府中校が取り組んでいるのは、「特色ある明星教育」です。明星中高は二〇二〇年度にSDGs推進校を宣言して以来SDGs実現に向け、生徒達はそれぞれ自ら考え具体的なアクションに取り組んでいます。その様子はBSテレ東「THE E名門校」(二〇二一年九月放映)で取り上げられ、生徒が自分達で考えたさまざまな取り組みが紹介されました。この番組を観て印象的だったのは、何よりも生徒が楽しそうに生き生きと活動している事でした。また、府中市との間で生徒が主体となり、様々な分野で連携を深めています。生徒と市長との意見交換会も開かれ、提案を市政に反映させる取り組みも行われました。この様に生徒達は教室での学びと共に、社会課題の解決方法を学ぶという将来の世界に貢献する社会人になる、大事な

訓練をしています。

明星小学校は、一昨年近年では最高となる受験者数を記録しましたが、昨年はさらにそれを超える受験者数となりました。今年度は「探求力の育成」を目標に掲げ、問題解決能力を育むため、全児童がくぬぎの時間に研究テーマを見つけて探求学習を進めています。

明星幼稚園は、今年度初めてJAXA(宇宙航空研究開発機構)と連携した活動を実施するなど新しい取り組みを開始しています。また、東京私学財団の研究助成の採択を受け、先生方が自ら意欲的に幼稚園と小学校のつながりを研究し、その成果をもとにあらたなカリキュラムを導入するなど、保育の充実に向けた活動も実践しています。

この様に明星一貫教育の充実で、生徒達はさまざまな学びを通じて成長していきます。

コロナ禍の中で、経験すべき事のできなかつた事もあります。反面オンライン学習などでこれからの将来に不可欠なITスキルなど通常では学べなかつた事をしっかりと身につけられた事も確かな事です。今、学苑で学んでいる生徒達は、ポストコロナの新しい時代のバイオニア世代なのです。

編集/体験教育編集委員会  
発行/学校法人 明星学苑  
東京都府中市栄町一丁目  
〇四二二三八八五二二  
制作/信濃印刷株式会社

### 目次

「特色ある明星教育」の実現に向けて

理事長 吉田 元一

1

### 幼稚園

二〇二一年度

「体験」が促す子どもたちの「めげえ」

明星幼稚園 園長 渡邊 智恵子

2

「卒園」ご進級おめでとうございませう

園長補佐 河浦 晃子  
園長補佐 中江 正司

2

### 小学校

スカツとさわやかに!

《「知的好奇心」と「学びを楽しむ心」で、新しい世界に》

明星小学校 校長 細水 保宏

6

六年生 卒業する私たち学級紹介

松組 「団結力のあるクラス」

竹組 「周りの人を元気にする力」

梅組 「個性あふれるクラス」

7

スポーツデイ

2021 明星祭

8

### 中学高等学校

新たな時代への幕開け

明星中学校・高等学校 校長 福本 真也

11

卒業生へのメッセージ

「スキー部の活躍」

中学三年四組 野崎 煌月

14

「体操部 全国選抜大会出場」

高校二年四組 深澤 咲喜

18

ランドセルプロジェクトの報告

高校二年六組 南口 百菜

19

スウェーデン大使との意見交換会

20

二〇二二年度

# 「体験」が促す子どもたちの「めばえ」

園長 渡邊 智恵子



暖かい日差しが園舎二階の窓辺に届き、その温もりを求めてなのか、メジロが一羽迷いこんで来ました。春が待ち望まれますね。

改めまして、お子様のご卒園、ご進級おめでとうございます。この一年、保護者の皆様には当園の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

コロナ禍二年目となった今年度、実施可能な活動は、当たり前ではなくなっていた【子どもたちの体験】に重点を置き行ってきました。

例年通りの運動会や劇遊び発表会に向けての活動は、例年以上に子どもたちの熱量と担任との絆が感じられました。おそらく保護者の方々も同様に感じてくださったことでしょう。

この活動を通して子どもたちは自分を表現し認められる体験をし、同時に友だちを認めることができ、一緒に作り上げ、友だちと心が通じ合う喜びを体験しました。

他にも年長組では、明星学苑の幼稚園ならではの恵まれた教育環境の一つですが、学苑教育支援室のご助力によりJAXA宇宙教育センターとの授業連携を行うことができました。ご担当者とおオンラインで、教員研修や打ち合わせを重ね、準備を整え、子どもたちは宇宙についての学びと「傘袋ロケット」の作成、園庭

で飛ばす体験をしました。

その後も担任は、子どもたちの好奇心を途切れさせることなく、壁新聞などで宇宙について紹介し、府中郷土の森プラネタリウム見学へとつなげることができました。

子どもたちの興味や探究する心を、こうして複数の活動を通して「つなぐ」ことができたことは成果に値すると自負しております。今後も今年度の活動を発展させて、子どもたちの好奇心の芽を刺激し、一つでも多くの夢が芽生える活動を計画してまいります。

年中組は感染状況のタイミングを見て、園バスで野川公園に行き、短い時間ではありましたが、かけっこやシャボン玉をして遊んだり、モグラの穴を見つけたりして過ごしました。子どもたちのほとんどから「あー楽しかった!」という声が聴けてうれしくなりました。

年少組は学苑内の散策へ行き、どんぐりを拾ったり、園内でゆっくりミカンを収穫して食べたり、焼き芋を体験したりしました。ゆったりとした時間の中で子どもたちの好奇心が満たされ、毎日を幼稚園で過ごすことが一人一人の日常となっていくました。

三学期の始業式で久しぶりに学年ごとに集まった姿を拝見しました。どのお子さんもその目に不安は

なく、この一年での成長が見て取れ、感激しました。この成長の上に次の日々、年月が積み重なって大きな成果となっていて

## 「卒園」「進級おめでとう」です

園長補佐 河浦 晃子

例年になく寒い冬ですが、木々に目を向けるとふくらとしたつぼみに春の訪れを感じます。お子様のご卒園・ご進級おめでとうございます。

今年度は、昨年から継続している感染症対策をさらに徹底しながらの日々でした。新しい生活様式がすっかり身につく、教員・園児ともにマスクの着用・手洗い・うがい・消毒・黙食は自然なこととなっております。保護者の皆様には様々な協力に感謝申し上げます。

一年が経とうとしている最近では、心身共に成長した姿にとてもびつくりさせられることが多くなりました。三学期の始業式、久しぶりにホールに集まり「みなしずか」をしました。四月のころとは全く違って皆きれいな姿勢ですわり、しっかりと目を閉じている様子に大きな成長を感じました。また、お友だちが困っているとき自然に声をかけて助けてあげている光景もよく見かけるようになり、心が温かくなるものが多くありました。新しい次の世界



園長補佐 中江 正司

でもきつと輝く笑顔が見られることを期待しています。

可愛らしいジンチョウゲの花の香りがただよい、春の訪れを告げる頃となりました。保護者の皆さま、お子様のご卒園、ご進級おめでとうございます。

今年度は私自身幼稚園に身を置き、子どもたちと接する機会をいただきました。年長組ではのびのびタイムを中心に、小学校での学習につながる活動を数回しました。好奇心旺盛な子どもたちの様子がとても印象的でした。また、年中組、年少組とは、保育室でお話ししたり、園庭で遊んだりすることができました。少ない時間ではありましたが、幼稚園の三年間は人生の土台づくりの場であることを改めて感じる事ができました。



四月からは一学年ずつ進級され、年長の皆さんはいよいよピカピカの一年生です。ますます世界を広げ、輝いていてください。応援しています。



「何かある！」探求心旺盛な子どもたちです

パネルシアター  
どんなお話が  
できるかな？



図書室で大型絵本「からすのパンやさん」を見ました

「ちゅーりっぷの芽が早くでないかなあ」



みんなで幼稚園のみかんを収穫して食べました



発表会の衣装を自分で作りました(みみずく)



英語遊びで「Trick or treat!」「Happy Halloween!」

待ちに待った遠足「とっても楽しかったよ!」



地震車を体験しました



「焼いても美味しかったよ！」



玩具『小さな大工さん』  
「どんな形にしようかな？」



持ち帰り絵本をみんなで一緒に読んでいます



年中ふじ組劇遊び  
「赤ずきんちゃん」



青空の下で相撲あそび

大きくなった小松菜の収穫をしました！



劇遊びの練習にて  
「はい、ポーズ！」



いちょうの葉っぱをたくさん拾いました  
(年中組学苑内散歩)



「大きなシャボン玉できるかな？」  
(年中組遠足)





避難訓練で地震車の  
見学。みんな真剣です

「みてみて！自分で  
登れるよ！」



表現遊び、何になり  
きっているのかな？

真剣な表情で取り組んで  
います (玩具「紐通し」)



「霜柱をみつけたよ！  
冷たいね〜」



サンタさんが来てくれました！

力を合わせて  
収穫したみかん  
を運びました「よいしょ！  
よいしょ！」



サンタさんの  
帽子を被って  
楽器を演奏し  
ました



クリスマス  
リースを作  
りました

**スカッとさわやかに!**  
 「知的好奇心」と「学びを楽しむ」  
 心」で、新しい世界に!」

明星小学校 校長 細水保宏

**「知的好奇心」と「学びを楽しむ」**

算数で九九を学習した後、よくそれぞれ1の位の数を使って図形を描く活動を行います。1の段から4の段までやってみた結果が左の図です。

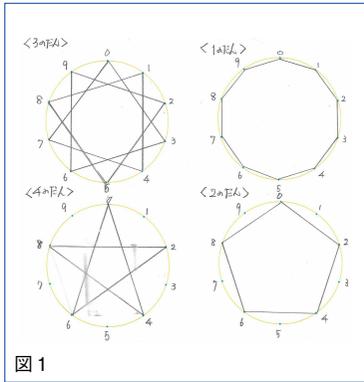


図1

1の段と2の段をやってみると異なる図形ができることが分かるので、さらにやってみようと思うでしょう。そして、3の段、4の段とやってみます。その動きを支えているのが「好奇心」かもしれません。

6、7の段と続けてやってみると何が見えてきます。

- ・3の段と7の段が同じ形になる
- ・4の段と6の段が同じ形になる
- ・だつたら、8の段は2の段と同じになるかな?

- ・9の段は1の段と同じになりそう
- ・5の段はペアがいなくてさみしそうです

- ・たして10になるもの同士が同じ形
- ・2、4、6、8 (偶数) の段は1、3、5、7 (奇数) の段が使われ

といったときに目が向いてきます。高学年であれば、そのわけを考え、「偶数×□=偶数だから」といった説明をするかもしれません。

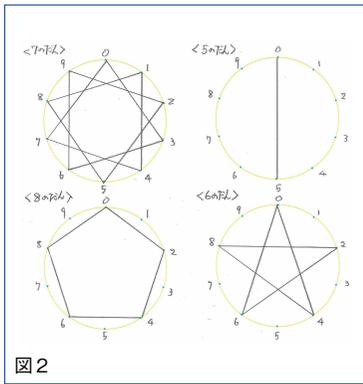


図2

5年生の「円と正多角形」の学習で、「もし、円周上の点12個を結びとどのような形になるのかな?」と投げかけると、下図のような図形が描かれてきます。

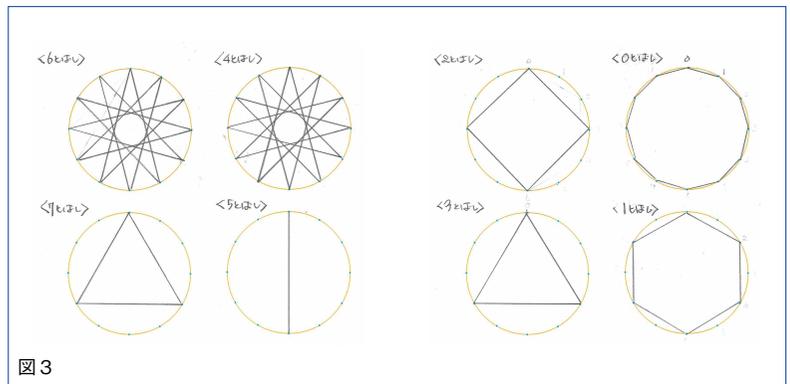


図3

同じものを観ても、知識や経験の豊かさで、おもしろいもの見え方が異なつてきます。それを「知的好奇心」と呼ぶならば、様々な体験を通して、「知的好奇心」をより豊かなものしていくことが大切であると考えています。

また、その時の原動力となるのが、「おもしろがる心」「今までのものと結び付ける力、先を見ていこうとする力」で、それを別な言葉で置き換

えたものが、「学びを楽しむ心」です。明星小学校で、皆さんは様々な体験を通して、感動しながら、この「知的好奇心」と「学びを楽しむ心」を豊かなものとして身に付けてきたはず。これからは多くの感動を体験しながら、新しい世界に目を向けたり切り開いたりしていく人になってほしいと思っています。

**6年生の皆さん**

**卒業おめでとうございます。**

「スカッとさわやかに!」

皆さんと知り合ったときから先生の大好きなこの言葉をいつも唱えてきました。何事にも全力で取り組む人、自分らしさを持った、人の笑顔を見るのが好きな人、という「さわやかで魅力ある人」になりたい、また皆さんにもなってもらいたいと思つているからです。これからは是非、『さわやか探しの旅』を続けていってください。「知的好奇心」と「学びを楽しむ心」は、その時の力強い原動力になると信じています。

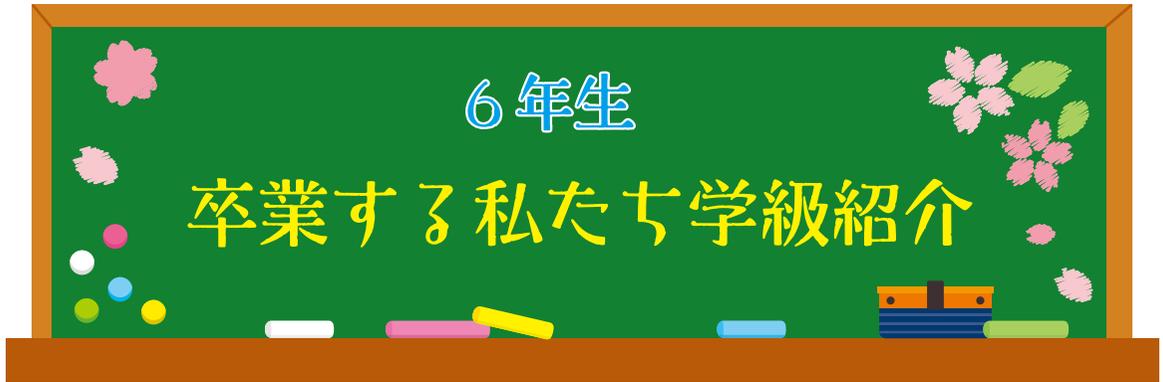
新しい旅が始まります。

小学校で体験し、培ってきた心と力で大きく羽ばたいてください。

応援しています。

もちろん、合い言葉は、

「スカッとさわやかに!」



### 松組

#### 「団結力のあるクラス」

六年前、真新しい制服に袖を通し、家族と一緒に慣れない靴で、勇気を出しながら、新しい一歩を踏み出しました。入学式では、右も左も分らず、私たちよりも何倍も頼りになるお兄さん・お姉さんの手をぎゅっと握り、ドキドキする気持ちのまま入学式が行われる講堂へと向かったことを、今でも覚えています。

それから月日が経ち、はや六年。私たちは、最高学年である六年生になりました。私たちのクラスは、男女関係なく仲良しで、他のクラスよ

りも自分たちのクラスが大好きと胸を張って言えるくらい、とても楽しくて明るいクラスです。私たちが六年生になってから、よく「最後」という言葉を聞くようになりました。

「最後」が付くと、しつかりと思いに残したい、そういう気持ちになります。

その一つが、運動会です。コロナウィルスが流行してから、運動会を縮小したスポーツデイという形で行われました。それでも気持ちは変わらず、スポーツデイまでの約一ヶ月間、みんなで協力して頑張りました。六年生の演技は、ソーラン節。クラスごとや立ち位置の前後で分かれる所だったり、きれいにかっ



こよく見せるために、六年間の色々な思いをぶつけました。そして、たくさんの拍手をいただきました。

最後に結果発表です。なんと松組が優勝しました。その瞬間みんなで飛び跳ねてたくさん喜びました。

小学校生活最後のスポーツデイ、本当にいい思い出になりました。

「やるときはやる！」その姿勢は、他のクラスに自慢できます。どんなクラスでも負けないくらいとって

も仲が良いクラスです。みんなと過ごしてきた毎日、忘れることのできない最高の宝物です。そして、私たちはこれからも、「正直なよい子」を目指していきます。

最後に、これまで育ててくださった保護者の方、先生方本当に六年間ありがとうございました。

### 竹組

#### 「周りの人を元気にする力」

六年竹組は、「元気で盛り上がるクラス」でした。休み時間になるとすぐに校庭に行き、大声を出して元気に遊んでいます。

このクラスが始まった五年生は、新型コロナウイルスの影響でなかなか登校が出来なかったり、宿泊学習などの行事がなくなってしまうと不安もあつたけれど、今ではたくさんの思い出があります。

私達の一番の思い出は六年生の時のスポーツデイです。六年生の競技はハリケーンとリレー、ソーラン節です。ハリケーンは練習の時は勝っていませんでしたが、本番まで作戦を練り、勝ちました。リレーは何度も練習して、直前はなかなかうまくいかず、順位が低くなってしまいうこともありましたが、本番はチームワークを発揮してワンツーフィニッシュ

ユをすることができました。最後にソーラン節では、振り付けを覚えるまで練習をして、びしっとかっこよく踊り切ることができました。デザインから考えた大漁旗もすてきな旗に仕上げることができました。もちろん、楽しいことだけだったわけではありません。悩む時も悲しむ時もありました。でも、それを乗り越えた今だからこそ一緒に楽しく笑い合えるクラスになりました。最近の竹組は学校に登校すると、教室に誰もいないことがあります。それは、既にみんな外に出てしまっているからです。暑い夏でも、雪の降りそうな冬でも、時には少しの小雨くらい気にせずに遊んでいます。この



六竹のみんなは周りの人を元気にする力を持っていると思います。この力をいつまでも宝物として大切にしたいです。今まで見守ってくださいました家族、先生方本当にありがとうございました。そして、六年間を共に歩んだ六年生の皆さん、本当にありがとうございました。中学生になるとそれぞれの道に進むことになってしまいうけれど、小学校での思い出を忘れずに頑張りたいと思います。

### 梅組

### 「個性あふれるクラス」

六年前の春、満開の桜が迎えてくれた入学式。私達は、この学校でうまくやっていけるのだろうか、とても緊張していました。そんな時、私達を元気づけてくれたのが、当時の六年生でした。あの時憧れていた六年生に、今ようやくたどり着きました。

六年生になった時、私達は学級目標を立てました。「誰かに自分があるクラス」「世界一楽しいクラス」「自分たちで行動するクラス」の三

つです。今振り返ってみると、私達梅組は、この目標を達成できたと感じています。

私達六年梅組は、男子十三名、女子十二名の計二十五名で、色々な個性を持った元気一杯のクラスです。

コロナ禍という不自由な生活の中でも、お互いに声をかけ合いながら、下級生のお手本になれるようにと頑張ってきました。ふざけすぎて、時々先生に叱られることもありましたが、いつでも誰かが声をかけて励まし合ってきました。

例えば、今年のスポーツデーに向けてのクラスの団結力はすごかったです。ソーラン節では、一人ひとりがベストパフォーマンスを発揮でき



るように、ダンスリーダーが熱心に教えてくれました。その他にも、リレーリーダーやハリケンリーダーが色々々と作戦を考えてくれて、自分たちがどんどん上達していることが実感できました。また、クラスの大漁旗の作製でも、多くの人たちの協力で満足のいくものに仕上がりました。スポーツデーでは優勝できせんでしたが、自分たちの成長が感じられた一日となりました。

梅組最大の特長は、何と言っても男女の仲が良いということです。昼休みには男女でドロケイをしたりドッジボールをしたり、いつも笑い声であふれていました。

そんな楽しい学校生活も、残りわずかとなってしまいました。これからは、中学校進学に向けて、一人ひとりがそれぞれの道に進んでいきますが、明星小学校で学んだことをいつまでも大切にしたいと思います。

この六年間、私達をいつも支えて下さったお父様お母様、そして先生方、すべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。

スポーツデー  
秋に吹くさわやかな風

コロナ禍の中で、実施方法を工夫しながら、十一月十五日(月)に二〇二一年度スポーツデーを行いました。昨年度の経験を活かし、今年度は一日で実施することができました。当日は秋晴れの清々しい天気で、予定通りスムーズに進行しました。二年生ずつの入れ替え制で、各学年二競技行いました。六年生は、下級生の競技の補助や応援など係として陰ながら行事を支えてくれました。一年生は、ペアで「中玉運び」を行いました。



二年生は、グループで協力しながら玉を運ぶ「中玉神輿」を行いました。



三年生は、グループごとに走ってから玉入れをする「ダッシュ玉入れ」を行いました。



四年生は、クラス対抗で「綱引き」を行いました。



五年生は、制限時間内に長縄を何人跳べたかを競う「長縄連続跳び競争」を行いました。



六年生は、コーンを回りながら走る「ハリケーン」を行いました。



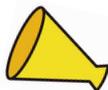
クラス対抗の競技が多く、子ども達はこの日に向け、クラスで話し合い、協力しながら、作戦を立てていました。休み時間になると協力して練習に励んでいました。本番でもお互いに競い合い、高め合い、励まし合うことで、練習の成果を発揮し、笑顔で喜びを分かち合う姿がたくさん見られました。

六年生の演技では、最高学年としての堂々とした姿を披露し、まさに圧巻の演技でした。

全競技終了後、全校児童が校庭へ集合し、閉会式を行いました。今年度は松組が優勝しましたが、竹組・梅組も最後はお互いの健闘を称え合い、清々しい笑顔で終えることができました。

例年の運動会とは違う形での体育行事となりましたが、保護者の皆様には、子ども達の教育活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

(文責 体育科)



# 2021 明星祭

今年度も、昨年と同様に子ども達のみで楽しむ明星祭を実施いたしました。一部と二部の入替え時には校庭でマーチングバンドの演奏も行われました。

教員ブースでは、各教室ともお祭りムードの飾りつけがなされ、参加券と引き換えにゲームにチャレンジすると色々なお土産をGetすることが出来ました。

そして、体育館では、PTA催しのゲームコーナー「モンスターパーティー」が行われ、「パツクン!はらべこモンスター」「モンスターをやっつける!巨大ボウリング」「はばたけモンスター!」今日だけ特別スリッパ飛ばし」の三つとも大盛況でした。今年は、モンスターシールを集めるとガラポンを回すことができ、何が当たるのか、わくわくしている子ども達でした。また、子どもバザーやプラ板も大人気で、自分がやりたいことを選んで楽しめた時間になりました。

保護者の皆様のご協力のおかげで、子ども達の心に残る楽しいお祭りを実施することができました。ありがとうございました。

(文責 明星祭実行委員会)



MONSTER PARTY



おたのしみくじ



スーパーボールすくい



おたからいっほんづり



PTA催し



わなげ



スポーツダーツ



# 新たな時代への幕開け



明星中学校・高等学校

校長 福本 真也



新型コロナウイルスのパンデミックも早二年。終息への不安の中で、日常をどう生きるかが大きく問われている時代になり、学校教育も明星学苑も大きな転換点を迎えていると言っても過言ではないと思います。その意味では、明星にとって今の時代ほど不易流行の位置づけが重要な時代はないと言えます。明星は、創立以来、「凝念と心の教育」、「体験教育」、そして校訓の「健康・真面目・努力」をととも大切にしてきました、どんなに時代が変化しようとも、児玉九十先生の教育感を具現化する大切な不易なのです。明星の教育の根幹である人間教育はどんな時代にも通用するものであり、真摯に受け継いでいかねばならないものです。

一方、流行の方に目を向けると、

二十一世紀は、かつてないほどの問題と課題を抱えており、全ての人間が地球存続への道を歩まねばなりません。社会は高度科学技術を駆使し、DX（デジタルトランスフォーメーション）とGX（グリーントランスフォーメーション）、SDGsなどの実現にヒト、モノ、カネが動き、Z世代の人材育成は時代に即したものにすることが要求されています。明星はその意味でも、伝統の不易のものを守りながら、新しい教育に果敢に挑戦していくことが次の百年のスタートとなります。「目に見える学力」と「目に見えない学力」の二つを巧みにクロッシングさせ、二十一世紀に必要な人材の育成をやり続けるのが明星の使命です。

来年の創立百周年を次の百年（NEXT 100）への新たなスタートとするために、学苑の不易である「建学の精神」、「教育方針」、「校訓」は変わりませんが、学苑及び各設置校の教育ビジョンと教育目標が新たに設定されました。中高の教育ビジョンは三つです。世界のトレンドに適応し続けるイノベーションな学校・人と自然を愛し、自他の価値を大切に作る学校・生徒と教師が共に成長し誇りを持つる学校。教育目標は「自分の未来をデザインし共創していける人の育成」です。教育ビジョンも教育目標も「NEXT 100」を意識したもので、新しい時代の幕開けに相応しいものであり、明星中高の益々の発展に大事なものです。

最後に、中学・高校の卒業生諸君に饒の言葉を贈ります。正門を入った右側にある二宮尊徳の言葉です。「我が道は至誠と実行のみ。故に才智、弁舌を尊ばず。至誠と実行を尊ぶなり。凡そ世の中は智あるも学あるも、至誠と実行とにあらざれば、事はならぬものと知るべし。」

明星教育の根幹は次の百年も脈々と受け継がれながら、新しい時代に必要な教育が行われる、それが明星の教育です。卒業生諸君、明星の卒業生であることを誇りに、これからの人生を胸を張って歩んで下さい。

今年度から中高一貫コースを新設した一期生として、今までとは違う取り組みをおこなってきました。まず、シラバスを全面的に見直し、アクティブラーニングの授業を多く取り入れ、自ら学び、発表する機会を多くの教科でおこなうようにしました。また、大きく変更したこととして、中間考査をおこなわず、単元テストを導入し、日々の学習の定着を図るように取り組んできました。新しく導入したことは、AIロボット製作とプログラミングの学習、英語を使って、自分、他者の価値観について学んだり、地域から日本、そして世界的な視点に立つて物事の理解を深め、養うGCP（グローバル・コンピテンス・プログラム）をおこないました。コロナ禍ではありましたが、校外学習も積極的に起こないました。府中、国分寺、多摩地域の散策で自然観察や新たな発見をすることができました。都心にも出向き、日本科学未来館、パナソニックセンターなどの見学を通じて、地域の自然最先端技術に触れたりすることもできました。これからの取り組みとしては、企業訪問などをおこなったり、様々な業界で活躍している方の

中学一年学年主任 佐藤 誠司

講演を聴いたりして「一流になる」きっかけを作っていきたくて考えております。

中学二年学年主任 **荻野 光康**

昨年度入学時からコロナウイルス感染症の影響を受けた学年で、思ったように行動することもできず、まだまだ中学校がどれだけ楽しいところかを体験させられずにいます。ですが、生徒たちの素直な性格や反抗期においても誠実な対応ができるところに救われ現在に至っています。生徒たちには自立心も芽生え、一年生の時から取り組んでいる朝読書は自分達から率先して動き、その場に学年の教員がいなくても二十分間静かに読書している姿は他の学年の先生から褒められるほどです。また、入学前はGoogleやZOOMといった言葉も知らなかったでしょうが、PCを一年生から持つことになり、オンライン授業の効果も授業を受けたり、課題を提出したりしていく中でICTの技能も着実に身につけています。

学年としては探究学習に重点を置き、昨年度の「身の回りから調べよう」において「府中・国分寺・明星検定」に始まり、今年度はSDGs

にも目を配り、春には高尾山に行きただハイキングをするのではなく山林の様子を学習しました。現在は宿泊行事に向けて「奈良・京都」において各班ごとにテーマを決めて探究学習をしながら「自分だけのガイドブック」を作成中です。東京都の英語村でもあるTGGに二回ほど訪問しグローバルの視点からカルチャースイックを受け語学の大切さも学んでいます。三学期にはICTの能力とグローバル教育の融合でハートグローバルとの動画作成をおこないます。コロナ禍の影響はまだありますが、事前の探究学習から、実際の体験学習を通して「本物を知る」ことを目的に今後も取り組んでいきたいです。

高校一年本科主任 **中林 孝光**

早いもので入学してから一年が経とうとしています。コロナウイルスに振り回される学校生活は難しさや辛さもありましたが、生徒一人ひとりの努力・前向きさや保護者の方々の協力のおかげで、良い一年を過ごすことが出来たと感じています。本科高校一年生では入学するにあたって三年間の目標を掲げました。学年

スローガン「WORLD」(世界に目を

向ける) With(何事も仲間や先生と一緒に、一人じゃない) Overcome(克服する・乗り越える) Respect(尊敬する・尊重する) Learn(学校生活すべてにおいて学びの精神) Dream(夢・目標を持って、追いかけて学校生活を送る) あらゆる場面でこのスローガンを意識させて学校生活を過ごしてきました。特にこの一年間は何事も一緒に協力して行っていくということWを意識させてきました。具体的には毎週二時間の総合学習ではグループワークを中心に、意見交換をしながら課題の発見・提案・解決などの探究活動に取り組んできました。そのおかげもあって、コミュニケーション能力ができてきたと感じています。また、プレゼン能力や校外探究活動への参加率も向上しました。今後もういった活動や学校行事・部活動などを通して仲間の大切さや生きる力をつけていってこれればと思っております。また、二年生以降は個の力を上げていく取り組みもしていきたいと考えています。

高校一年MGS主任 **伊藤 大輔**

MGS高校一年生は中学校から四十六名に、高入生五十六名を新たに

迎えスタートしました。新型コロナウイルス感染症の影響で入学式への参加は生徒・教員のみ、保護者の方はライブ視聴という、これまでにならぬ高校生活の幕開けとなりました。不安と緊張が少しづつほぐれてきつつあった四月末でしたが、新型コロナウイルス感染症数の増加に伴い、五月のゴールデンウィーク明けから約一か月半の間、通常登校日とオンライン授業日を交互にした分散登校生活となりました。そのような中でも生徒たちはいつも明るく前向きに毎日を送ってくれていたように思います。様々な中止・変更、慣れないオンライン授業にも不平・不満を言うことなく取り組む姿に、我々教員は励まされました。中止になってしまった行事が多い中、学年開催となった体育祭、校内実施となった文化祭が実施できたことは本当によかったと思っております。制限や規制が多い中で、できることを一生懸命楽しみ、いいものにしていくとする姿は生徒たちの素晴らしい財産です。感染者数が落ち着いていた二期には、古典的名著を紹介する「読書プレゼン大会」を実施しました。

学年の生徒全員の前で発表する決勝戦では、教員をもうならせるプレゼンを見せてくれました。また、十月下旬には自分の興味あるものを選択

する「美術館・博物館鑑賞」も実施することができました。国立科学博物館に参加した生徒は「知識が身についたことで見え方が大きく変わっていた。例えば細胞についての展示や、理科の単位についての展示などは学校の授業でやった内容で、展示を見てそれが既習内容と頭の中で繋がっていく様がとても面白かった。」とポートフォリオに記録を残してくれ、体験教育を実践できたように思い嬉しく思いました。次年度以降も一人ひとりの成熟を支援していきたいと思っています。

高校二年本科主任 **飯島 崇史**

入学以来ずっとコロナの影響を受けながらあつという間に二年生修了となりました。ほとんどの行事ができなことはおろか、一つの学期間で最初から最後まで対面授業がないという状況が二年間続きました。せっかく登校できても黙食やソーシャルディスタンス。校歌を「斉聴」だったのが、二年生の二期期にやっと「小さな声での」斉唱になったと思ったら、オミクロンの登場で「斉聴」に逆戻り。そんな中でも学校大好きな生徒が多く、この時世を受け止めながら、学びを深め、友情をはぐく

み、社会のことを考える生徒の皆さんの姿勢に学年担当一同本当に救われました。何とか開催した学年ごとの体育祭。一日だけの文化祭。密を避けるためにクラスごとの学年の遠足。与えられた状況で、文句も言わずに、ひたすら準備に励み当日を楽しみぬく姿勢に、明星の校訓の「健康」で「真面目」に「努力」する姿勢の体現を見せてもらいました。

また、本学年はSDG S推進の学

年としてスタートを切りました。登校日が平常の三分の一、登校できたとしても授業が終わると打ち合わせや活動もできない毎日にもかかわらず、課題発見や解決のための多くのプロジェクトが立ち上がり、「世のため」「人のため」の時間に当たったことはとても誇らしく思っています。そんな中で行った「日本一大規模な文化祭」と銘打った「販売会」では国分寺の神社と豊洲の公園で地域を盛り上げ、多額の売り上げで地方事業に貢献しました。他にも世の中の変化の中で「ジェンダーバイアスの問題」や「カーボンニュートラル」「地域格差や活性」にも興味を持ち、「じぶんのこと」としてたくさん成果を上げました。TVにSDG Sに取り組み「名門校」として取り上げられたり、何度となく大小のメディアにも取り上げられまし

た。四月になれば、いよいよ三年生。進学や受験に向けて、一人ひとりが熱を持って行ってきた様々な活動をまとめつつ、学習にも真剣に向き合っ

高校二年 MGS 主任 **別府 和哉**

た。四月になれば、いよいよ三年生。進学や受験に向けて、一人ひとりが熱を持って行ってきた様々な活動をまとめつつ、学習にも真剣に向き合っ

組み続けました。そういう明るく前向きな姿勢に私たちも励まされていた気がします。

発達心理学によると、人間の発達

の過程は「脱中心化」です。それは、現在の自分自身の観点を考えが多くの観点や考えの一つにすぎないことを認識し、統合的に物事を捉える態度のことです。自分の観点だけではなく他者や社会一般の観点を取り入れる必要があります。自分に妹が生まれ、親の注意が赤ん坊に注がれることで駄々をこねていた兄も、妹がまだ何もひとりではできないことや妹にとって自分が頼るべき相手であることに気づいたとき「お兄さん」になるのです。

逆境にありながら自分中心の考えから脱却して頑張っている様子から、皆さんがコロナ禍の日々でさえ体験教育の場として大人になってきたのを実感し、頼もしく思っています。もちろん学習上の課題はまだまだあります。ここから先、受験に向けてはこれまでにない険しい道となるでしょう。しかし、ここまでやって来た皆さんなら、困難や壁にぶつかりながらも、受験や勉強勉強を通してさらに成長し、最終学年も充実したものにしてけると期待しています。



# 卒業生への メッセージ

中学三年学年主任 **大野 直美**

令和元年四月「元氣・勇氣・やる気・根気」四つの気持ちを大切に、とスタートした中学校生活。コロナに翻弄されながらも、歩みを止めず

諦めずに団結力を発揮してくれた皆さんに何度も励まされました。何げない日常がこれほど大切だったのかと実感し、今はこの三年間に感謝の気持ちでいっぱいです。

さあこれから先は、それぞれの道に進みますが、同じ校舎で過ごした絆は決して消えることはありません。辛い時や悲しい時は、思い出して下さい。皆さんには温かいご家族と優しい仲間がいることを。そして私達もずっと応援し見守っています。『人知るもよし 人知らざるもよし、我は咲くなり』という言葉を皆さんに贈ります。三年後、大輪の花を咲かせて輝いて下さい。またお会いしましょう。

中学三年一組担任 **田中 義隆**

これからそれぞれの道に進み、楽しいことも辛いこともたくさんあることでしょう。その一つ一つがみなさんの礎になり、新たな世界を切り拓きます。四月から新たに出会った仲間とたくさんの思い出を作ってください。応援しています。

中学三年二組担任 **倉田 宏一**

三学期最初のH.R。「三学期と高校での目標」を一人一人発表しまし

た。これが叶うことを祈っています。また、卒業後も応援していきます。

中学三年三組担任 **阪上 龍也**

皆さんが将来、仲間と切磋琢磨し夢の実現に向けて、成長を続けていくことを願っています。新しい環境でも人間関係を大切に。

中学三年四組担任 **佐滝 弘美**

「春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む」謙虚さを忘れずに、他人に寛容であってください。明星中学校の卒業生として誇りをもち、高校でもリーダーシップを発揮することを期待しています。

中学三年学年担任 **中村 公辰**

卒業はゴールではなく節目です。四月には新しいスタートを迎えます。三年後の目標達成を目指して、大いに頑張ってください。

中学三年学年担任 **本田 康男**

「迷ったらやる！」今までの半生での教訓です。あの時やっていたいばよかった、こんな後悔を何度したとか。「迷ったらやる！」です。

中学三年学年担任 **八木橋 歩**

親、先生、友人、知人、たくさんの方々からいただいた支えと応援、そして自分の頑張りで卒業を迎えました。感謝の気持ちを忘れず、頑張ってきた自分に自信をもち、これからも歩んでいってください。

高校三年本科主任 **渡辺 裕**

## 『耐雪梅花麗』

「雪に耐えて梅花麗」(ゆきにたえてはいかうるわし)と読みます。これは、西郷隆盛が詠んだ漢詩の一節で、数年前に引退したプロ野球広島東洋カープ黒田博樹投手の座右の銘としても有名な言葉です。

『梅の花は、冬の雪や厳しい寒さを耐え忍ぶからこそ、初春に美しい花を咲かせ、かぐわしい香りを発する。人間というものは、辛いことや苦しいことを耐え忍んでこそ、大きく成長する。大成するには、忍耐が不可欠である。もし、これらの天意をよく認識するならば、決して我が身の「安楽を謀る」ような生き方をしてはならない』というような意味だそうです。

今後の人生、良い事ばかりとは限らない。上手くない事も、思い

通りにならない事も、辛く苦しい事もあるだろう。厳しい寒さや冷たい雪に耐えなければならぬ事もあるかもしれない。しかし、「苦しまずして栄光なし」。厳しい逆境に耐えていけばいつかは道がひらけると信じよう。明星高校を巣立つ484の美しい梅の花が咲き誇る日を楽しみにしています。

卒業おめでとう！

高校三年MGS主任 高木 保欣

『アフター「コロナの未来に向けて」』

振り返ると、二年前、皆さんが高校一年の学年末、政府による一斉休校が発出され、これまでのごく普通の日常生活が激変しました。ある社会学者は、「実は感染症は歴史的には、それが広い地域で大流行した時期が、時代の転換点にすらなってきた大問題でした。折しも我々の眼前で、その問題が展開しているのです」とも語っておられます。コロナ禍で不自由な学校生活を強いられた一方で、世界に目を向けると、コロナウイルスのワクチンや飲み薬の開発が急ピッチで進むなど、現代の科学技術の進歩の凄まじさや人間の英知のすばさもまじまじと実感することができました。

人間の学びは一生継続していきま

す。そしてその目的は、人類の幸福に貢献していくことでしよう。この時代の転換点に立つ卒業生の皆さんが、明星での学びを糧として、これから進むそれぞれの分野での学びを深化させ、世界の人々の幸せな未来を創る一翼となつて活躍してくれることを祈念しています。まさに「知は力なり」です。卒業おめでとう。

高校三年一組担任 丸岡 邦子

『また会(ひ)たい』

早春の麦畑では、出たばかりの芽を足で踏みつける麦踏みが行われます。踏まれることで、根がしっかりと張り茎は太くなり、激しい風雨でも倒れずに沢山の穂を実らすことができます。皆さんのこの数年間は、我慢を続け思い通りにいかない日々だったと思います。しかし、諦めずに柔軟性や忍耐力を持って向き合ったことで、以前より明らかに強くなやかに成長したと思います。皆さんと共に歩めたことは、私にとつて大きな収穫です。これまでありがとうございます。また会いましょう。

高校三年二組担任 齊藤 遼

『充実した人生』

卒業おめでとう!!皆さんはこれから

ら多くの自由な時間を得ます。しかし、その時間は有限です。まだコロナの影響はしばらく続きますが、そのような状況下でどう過ごしていくか考え、一日一日を大切にしてくださいね。何か一つの事を極めるために熱中してもよし、たくさんの事を知るために行動を広げてもよし。そのような経験は人生を豊かにするきっかけとなりますよ。

高校三年三組担任 竹田 勝児

『なりたい自分とは?』

卒業おめでとうございます。皆さん、夢はありますか?なりたい自分がありますか?卒業したばかりの君たちは、きつと未来の自分を想像していることでしょう。どのような服を着て、どのような知識と教養があり、どのようなことを学んでいますか?現在の自分となりたい自分の差を正確に計ってください。その差が今後の君たちの指針となります。十年後、なりたい自分となった素敵な君たちに会えること楽しみにしています。

高校三年四組担任 廣木 孝司

『久しぶりの「男クラ」』

高校三年生を卒業させた翌年度

に、この高校三年生の学年に所属しました。なんとそのクラスが『男子クラ』。明星で担任を初めて持つたクラス以来でした。進路実現を目標に『男クラ』はどこまで勢いがあるのか、とても楽しみでした。案の定、授業でもHRでも、とても元気でした。彼らと共に体育大会で盛り上がり、研修旅行では、新型コロナウイルスに感染しないよう十分気を使いながら楽しみました。結局、進路実現というプレッシャーはありましたが、何よりも楽しく一年を過ごせたことは『男クラ』構成メンバーの資質なのでしょう。ありがとうございます!!感謝します。そして、卒業おめでとう!!

高校三年五組担任 蓮沼 淳郎

『卒業おめでとう』

この三年間、学校生活の多くが制限される中でも、前を向き、ひたむきに努力する君の姿に何度勇気づけられたかわかりません。本当にすてきな時間をありがとう!これから君は新しいステージへと進むわけですが、ぜひ君自身のことを「知(識)つて」ください。自らの長所や弱点、性格や考え方...自分を客観的に測り、自身についての理解を深めることができれば、必ず君は社会の中で

力を発揮し、活躍することができま  
す。新しいステージでの君の活躍を  
楽しみにしています！

高校三年六組担任 **中三川東子**

『誇れる十代』

卒業おめでとうございます。みな  
さんは「卒業式」を何度か経験して  
いますが、この言葉がこんなに重要  
な意味を持つ卒業式は初めてではな  
いでしょうか。この三年間で経験し  
た喜びも苦しみも、すべてが結実し  
た「卒業」です。卒業後今以上の困  
難に出会うかもしれないが、この  
3年間の経験が必ず生きると思いま  
す。そして数年後、十代の自分を振  
り返った皆さんが十代の自分を誇れ  
る時が来ることを祈っています。

高校三年七組担任 **望月 雅晴**

『うつせし生懸命に』

卒業おめでとうございます。これ  
からの人生では晴れの日もあれば、  
雨の日もあります。物事が上手くい  
かないときには「健康・真面目・努  
力」の校訓を思い出してください。  
そして、いつも一生懸命に頑張り続  
けてください。きっと良いことがあ  
ります。頑張ることはあなたの中に  
大切なものを残してくれます。だか

ら、絶対にあきらめてはいけません。  
自分を信じ前進しましょう。成長し  
た皆さんとまた会えることを楽しみ  
にしています。

高校三年八組担任 **石山 敏之**

『人生の糧に!!』

明星高校での3年間は満足のいく  
高校生活だったでしょうか？第一志  
望で入学した人も、そうでない人も  
います。コロナウィルスによって、  
満足いくような学校生活を送れなか  
ったこともありました。しかし、こ  
の三年間を通して明星高校で学ん  
できたことは今後の人生の糧になるこ  
とは間違いありません。特に「信念」、  
「健康・真面目・努力」は強烈に心  
の中にしみみついているはずです。何  
十年経っても忘れることはないはず  
です。将来、明星高校での三年間が  
あったからこそ今の自分があると思  
えるようになってほしい、そのよう  
に思えるような「心」の持ち主にな  
ってほしいと願っています。今後に  
期待しています。

高校三年九組担任 **上野 恵里**

『自分の世界を広げて!』

高二の二学期、全面登校が再開さ  
れた時の皆さんの笑顔は忘れられま

せん。当たり前のことができる喜び  
と嬉しさが滲んだ教室で、私自身も  
皆さんと一緒に何ができるか考え、  
歩んだ学校生活でした。世の中には、  
自分がどんなに願ってもどんなに努  
力しても時には叶わないこともあり  
ますが、そこでの頑張りが人として  
の生き様です。不平・不満を言わず  
に自分の世界を広げていった皆さん  
を心底頼もしく思っています。皆さ  
んの学年を担当出来て幸せでした。  
ありがとう。

高校三年十組担任 **川辺 一**

『命を大切に』

“Your life is worth much more  
than gold.”君の命には、黄金なん  
て比べ物にならないほどの価値があ  
る”この言葉はレゲエの神様と言わ  
れたボブ・マーリーの名言です。授  
かった貴重な命をこれからも大切に  
し、有意義な人生を歩まれることを  
切に願っています。  
ご卒業におめでとうございます。

高校三年十一組担任 **柏木 宏**

『INSPIRE』

高校生活の三分の二をコロナ禍で  
過ごし、対面授業やグループ学習が  
出来ない時もありました。言葉を自

由に使えない環境の中で、言葉につ  
いて考える機会がありました。

日頃、私たちは「伝える」言葉だ  
けを大事にしがちです。しかし、言  
葉は「考える」道具でもあります。  
考えを深めるためにも、言葉は豊か  
でありたいものです。そして、自分  
自身を「励ます」言葉を持っている  
かどうかで人生は変わってきます。  
三つの言葉を大切にしてください。

高校三年十二組担任 **佐藤 育義**

『卒業』は次の始まり。』

あと数年で社会へ巣立つ皆さんに  
祝辞として五つの言葉を送ります。  
①「挨拶」と「返事」で信頼は築か  
れます。

②「素直さ」は成長の最強の武器です。  
③「頼まれ事」は「試され事」と考  
えましょう。相手の要求を超えた  
内容を返す事が本質です。

④ 今、最優先に行うべきものは学  
問です。形あるものは、いつか奪  
われ失います。自ら修めた学問だ  
けは、決して失われません。

⑤「無駄」と思われるものこそ、自  
らの教養と品位を高め自分を助け  
ます。  
卒業おめでとう。活躍を祈ってい  
ます！

高校三年十三組担任 **藤井 証高**

『卒業おめでとう』

高校二年から三年生の二年間をコロナ禍で過ごし、たくさんの我慢を強いられてきたと思います。こんなはずではなかったと思って過ごしていた人も多いと思いますが、時は戻って来ません。この経験を得た君たちは、時間の大切さを嫌でも感じたのではないのでしょうか。一度きりの人生なので、後悔のないように様々なことにチャレンジしてほしいと思います。今後さらなる成長を遂げてくれることを願っています。

高校三年十四組担任 **藤野 貴紘**

『自分の生きる道』

卒業する君たちはこれから何十年も生きてゆきます。そのなかで、好きなことよりも、時間を忘れて没頭できるようなこと、夢中になれることを見つけてほしいと思います。人生の大半は仕事をして過ごすわけですから、そのような仕事に就くことができたら、それは時間を忘れるくらい楽しく、この上ない幸せとなるでしょう。一人の社会人として仕事に夢中になっているみなさんとお話ができることを楽しみにして、

はなむけの言葉とします。

高二学年担任 **阿部 智章**

『Next SPARKLING』

「卒業おめでとうございます。自分は今年度から明星高校にきた新参者ですが、皆さんの華やかな門出にご一緒できて大変うれしく思います。一年間だけでしたが授業や研修旅行など、明星高校の生徒のいろいろな面に触れることができて自分もとても楽しかったです。この三年間で得られたひとつひとつの思い出たちを大事にしながら、あたらしい輝きへと手を伸ばして行ってください。」

高二学年担任 **上岡 司**

『卒業おめでとうおめでとう。』

私が皆さんの学年に入ったのは二年生の時からでした。新年度早々、新型コロナウイルス感染症の影響で、分散登校や授業動画の視聴、オンラインによる遠隔授業など、不慣れな状況下でも、真面目な授業態度や提出物の提出状況が非常に良好で、毎日の授業がとても楽しみでした。部活動が制限されたり、学校行事も中止や変更が相次ぐ中、時期を遅らせて実現した「研修旅行」は間違いなく強烈な思い出となって残っている

ことでしよう。四月からはみんなが新しいスタートを切ります。それぞれの新しい世界で大きく羽ばたいてくれることを願っています。最後に、「Don't worry, be happy!」

高三学年担任 **木村 史子**

『思考を止めない』

コロナ禍の影響を一番受けた学年であり、多くの制約があった高校生活だったと思います。それでも自分で考え、様々な工夫をして学校生活を過ごしたことは、今後にきっと活かせることでしょう。成功したときも、失敗したときも人は思考することで更なる成長に繋がります。何故? こうしたらどうなる? こうする為にはどうすれば良い?...常に考えながら行動することで道は自ずと開かれます。

『思考を止めない人となれ!』  
卒業おめでとう!

高三学年担任 **齊藤 文彦**

『逃げずに考えよう』

卒業おめでとう。君たちには前途洋々たる人生が待っている。しかし、うまく行かないこともあるだろう。そんな時のために、君たちに次のイチローさんのことばを贈ろう。「ス

ランプになったときには悩んでください、考えてください。考えずに開き直ることは、僕は嫌いです。考えて考えて苦しんだ上で結果を出すことでしか、前に進めません。僕はそれで良いと思う。苦しんで良いと思う。」

高三学年担任 **佐藤 将鷹**

『予測不可能な時代を生き抜け!』

「卒業おめでとうございます。高校生活の大半が新型コロナウイルスの影響を大きく受けましたね。「予測不可能な時代」を生き抜くためにメッセージを3つ。  
①命は大切に!  
②責任を持った行動を!  
③出会いを大切に! これからも人間力を磨きながら、失敗を恐れずに、前に進んでください。」

高三学年担任 **高島 良太**

『ステップアップ』

「卒業おめでとうございます。人生の中でいくつもの階段を上っていきます。今ここで高校生活から進学・就職という階段を昇りました。この先もいろんな困難に立ち向かいながら成長されることと思います。そんな時には、明星学苑で過ごした

日々というステージを振り返って下さい。仲間とともに歩んだ日々の思い出は皆さんの大きな励みとなり、次のステップへの後押しとなるでしょう。

高三学年担任 **橋本 忍**

『今までの学び、これから』

『他者や自分には思いやりと優しさを持って大事に相對すること』『心と身体の健康を保つように心がけ生活すること』『既知・未知に関わらず知識と技術の確かな習得と向上を目指すこと』『自分にできることを模索し周囲への貢献を心がけること』『逆境には希望と創造力を持って挑みベストを尽くすこと』。地球環境や社会状況がどう変わろうとも、これらの大切さは不変です。今までのようにこれからも、忘れずにいてください。卒業おめでとう。

高三学年担任 **藤森 圭太**

『らうんきゃなつ。ちんぱがうめ。』

高校生活の三年間は人生の中で考えると一瞬なのかもしれません。しかし、高校生活の三年間は人生の中で一番充実した三年間であると思います。いろいろな経験をしたり、友人ができたりしたと思います。皆さん

の土台はしっかりしています。なにかあっても支えられる経験や友人がいることを忘れないでください。そして、自分自身も困っている人を支えられるという覚悟を置いてください。頼れる先輩・頼れる後輩になれることを期待しています。

高三学年担任 **吉川 真由**

『生きていきましょ』

「わたしたちは、いわば、二度この世に生まれる。一度目は存在するために、二度目は生きるために。」哲学者ルソーの言葉です。様々な試練を経て子ども時代を脱しつつある皆さんが、今や大人の仲間として立っていることを頼もしく思います。ただ存在するだけではなく、より善く生きましょ。他者と協働し、深く考え自分を律して生きましょ。生きていきましょ。一生懸命生きている皆さんがとて愛おしいです。



「スキー部の活躍」

中学三年四組 **野崎 煌月**

スキー部は顧問柴田和浩先生のもと、部員八人で活動しています。二〇二二年一月五、六日によませ温泉スキー場で行われた第五十九回全国中学校スキー大会東京都予選会に四名が出場し、大回転競技では野崎煌月第二位、堀俊一第六位、回転競技では、野崎煌月第三位となり、二名が二月に開催される全国中学校スキー大会に出場できる事になりました。また、総合ポイントで競う学校対抗の部では、二十三年ぶりに男子総合優勝する事ができました。

このような結果が出せたのは、雪上トレーニングだけでなく、コッコツと日々の陸上トレーニングを頑張ってきたからだと思います。主としてトレーニングの内容は、持久力をつけるためにランニングやボックスジャンプをし、瞬発力を鍛えるために五〇メートルダッシュをします。他にも体幹を強くするために重さ三キログラムのメデイスボールを使ったトレーニングや、インラインスケートを使ったスキーのイメージトレーニングなどを行っています。そしてト

レーニングだけではなくその後の体のケアにも力を入れています。ストレッチはすごく重要で体の柔軟性はケガの防止や股関節の可動域が増えたりすることでスキーの技術向上につながるからです。

僕たちは、それら陸上トレーニングと身体のケアを行うことで、体力・技術の向上を目指して常に全力で取り組み自分の限界を超えようと意識しながら練習を重ねています。

全中予選当日は、初めて出場する選手もいましたが、部員全員が集まりました。スタート前ではみんなが一生懸命トレーニングして来た事を思い出し、その自信が良い滑りにつながったのではないかと思います。





十二月十九日に行われた全国選抜予選大会を通過し三月二十一日熊本県で今まで目指していた全国大会に

**「体操部  
全国選抜大会出場」**  
高校二年四組 深澤 咲喜

野崎煌月と堀俊一は、全国中学校スキー大会に出場することが決まりましたが、このことだけに満足せず、本場で力発揮できるように一生懸命頑張っていたと思います。引き続き応援よろしく願っています。

出場できることになりました。コロナ禍での練習は、感染対策をしながら取り組みました。予選大会では、得意な床と跳馬で新しい技を入れ高得点につながりました。段違い平行棒と平均台ではミスがあり、選抜大会までの課題となりました。



す。苦手な段違い平行棒、平均台では予選大会でミスがあったので安定さを求めていると思います。そのため、体のしめが大切なのでトレーニングの際に体幹を鍛える、普段の練習から意識するなど安定さを重視した練習をしていきたいと思っています。また今年までに出た大会の結果からまだまだ改善点は出てくると思うのでそれも確認しつつ良い演技ができるように取り組んでいきたいと思っています。

**ランドセル  
プロジェクトの報告**  
高校二年六組 南口 百菜

皆さんは読み書きができない子供の人数を知っていますか？  
その数、七億五千万人です。私達が当たり前のように勉強している今日も七億五千万人の子供達にとって当たり前から程遠いことなんです。そしてタリバン政権が掌握した混乱したアフガニスタンの子供たちもその一部です。

そこで行ったのがアフガニスタンの子供達たちにランドセルと筆記具を送るランドセルプロジェクトです。アフガニスタンではほとんどの子どもは、大切な教材をビニール袋や布にくるんで運んでいます。貴重な本や教科書である事を理解していてもそうするしかないからです。ランドセルプロジェクトはそんなアフガニスタンの子供達に日本からランドセルを届けることで、子どもたちにもっと学んで自分の未来を切り開く力を身につけて欲しい。ランドセルプロジェクトは、その第一歩を踏み出すためのきっかけとして行われています。そんなランドセルプロジェクトを二〇二二年本校でも呼びかけ、ランドセル十一個、書き損じハガキ三五〇枚が集まりました。そして、二〇二二年一月無事にランドセルと学用品が輸送するNPO団体ジョイセフに渡り、これからアフガニスタンに届ける準備に入りました。

今回のランドセルプロジェクトは「子供の学ぶ環境を提供し、命を救う」という考えからスタートしたものでした。ランドセル、書き損じハガキ、学用品を提供してください。方、企画進行中アドバイスをくださったひとしずく株式会社様、ジョイセフ様、そして応援してくださいました全ての皆様。私だけでなく沢山の



▲提供していただいたランドセルの一部

方々の愛が集まり進行されたプロジェクトとなりました。初めて自分一から大きなプロジェクトを動かし、準備に未熟なところが沢山ありましたが、私が考えたプランだけでは達成できない進行になっていったと思います。それにも関わらず、多くの企業の方々、NPOの方、生徒の皆様を支えていただき、プロジェクト期間は実り多い一日一日を過ごせました。感謝の気持ちでいっぱいです。皆様の温かいお気持ちが励ましとなりアフガニスタンの子供達の今後の学ぶ環境の向上への礎になると信じています。そして今後皆様がさらにSDGsに関心を持っていただけたらうれしいです。改めまして、ランドセルプロジェクトへご協力いただき誠にありがとうございました。

## スウェーデン 大使との 意見交換会

二〇二二年十二月二十日(月)にスウェーデン大使館より、ペールエリック・ヘーグベリ大使が来校され、高校二年生本科生徒(十五人)と英語での意見交換会が実施されました。意見交換会のきっかけは今年の八月、外部企業による協力のもと、ジェンダー問題に取り組む有志グループ「Po f e」の生徒たちがスウェーデン大使館に赴き、大使へインタビューしたことです。生徒からのインタビュー後、ヘーグベリ大使から「ぜひ学校に訪問して、日本の高校生の素直な意見を聞きたい」とご相談をいただき、今回の意見交換会が実現しました。

意見交換会の会場は本校図書館。当日はスウェーデン関連本の特集コーナーも準備され(大使も大変喜んでいました)、コーヒーを飲みながらの和やかな雰囲気での意見交換会がスタートしました。生徒の発表に対する大使の質問、また生徒から大使への質問と活発なディスカッションが行われました。今年度のSDGs



(右) ペールエリック・ヘーグベリ大使

の取り組みから、日本の高校生の日常、部活動や趣味や特技、日本のジェンダー格差への取り組みや課題など話題は多岐にわたる意見交換が行われました。中には将来外交官になる約束をした生徒も。参加した生徒は「大使も父親として当たり前のように家事をしていることや、スウェーデンのジェンダー意識を知ることができた」「自分達の活動が世界規模の活動にリンクしていることを実感でき、自信を持つことができた」「SDGsが本校だけの取り組みではなく、世界の取り組みとしてやるべきことだという認識を新たにできた」



▶ 図書館のスウェーデン特集



意見交換会参加メンバー

た」などの意見がありました。今回このような機会を作っていただいた大使を始めスウェーデン大使館の皆様はもちろん、当日の手配や準備等にご協力いただいた事務や図書館スタッフの皆様ありがとうございました。